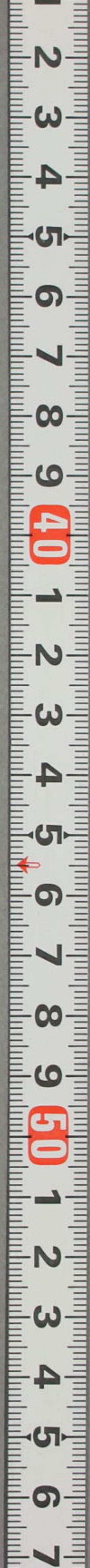




口 9
3315
1



9
3315
1

二禮堂覽上目錄

喪禮

初喪一

護喪主賓司書司貨二

備用三

治棺四

神主五

誌石六

沐浴七附襲

入棺八



去五味均平藏



ちりくありてうのとりせまふりよりとう上座く
 南枕^{みなまくら}よみとて小神^{こがみ}とよまおちひ。屏風^{びやうぶ}より
 ておちひ。顔^{うら}の厚^{あつ}さ衣^えみとてをど。むとある地
 うらあちひてう。程^{ほど}いさおちひんを祓^{はら}ふんなり。
 其^そ位^{くらい}をけくみと喪主^{そうしゅ}とて。喪主^{そうしゅ}とてうめとて
 其妻^{つま}其弟^{あに}姉妹^{いまい}いつちも容^{よう}より衣^い装^{そう}よいとて
 されちりてとて。髪^{かみ}を常^{つね}れやうといゆとて。麻^{あさ}の
 絨^か織^かりといひありてかりとめととりあひ。初^{はつ}氷^{ひやう}を
 せし。三日^{さんじつ}孝^{かう}肉^{にく}地^ちくふとてあるなり。はちとて三日
 の食^{しょく}食^{しょく}をふとれうりて。孝^{かう}長^{ちやう}の人^{ひと}、海^{かい}とてぬ衣^え

ひとりきりきつられぬすゝくひてう。さ長
 朋友かきすびるより紙はくを。喪のおもひ三日
 烟をくてももあれい強すらんとなんぬ人の我
 病めて烟くちきりてきつるあも。我よりて
 喪主の下のいぬるは葉れひるをききて尸骸
 ちうにふもろくすゝく

護喪主實司書司貨二

讓喪と喪のり義徳のともなり也。一族いその中なかの女メを
ある人ひととなくいそぐと友の肉にくをてぬれちりたる
人をそれと定さだむる。主賓を吊とふ来きぬ人をあひ

一、うし役なり。其の師使う其不^{そん}のそ長又^{そん}板代
 の知^{ちん}もみと入^い本^{ほん}さるま^まい喪主と^いい^い出^い一^い對面^{たいめん}を
 ともか^いこれ主賓あ^いる^いてか^いも^いなり喪主^いと^い人
 よ^い出^いあ^いる^いや^いや^い也^いとい^いる^いも^いこれ顔^いと^いつ^いも^いの
 一^いも^いて。其^い人^いの^い師^いを^い送^いる^い次^い主賓送^いり^いて^い出^いる^い也
 司書^いを^い喪葬^い入^いる^い也^いと^い或^い他^い不^いり^いれ^い也^いを
 帳^い成^いけ^いり^いて^い出^いる^い役^いなり。司^い貨^いを^い喪葬^い入^いる^いの
 金^い銀^い米^い錢^いつ^いも^い人^いや。これ^い僅^い厚^いの^い人^い紙^いを^いら^いゆ
 へ^い。世^い四^い人^いみ^いれ^い喪^い主^いみ^いい^いる^いて^い心^い喪^いと^い
 何^いや。は^いも^いも^い喪^い主^いい^いる^いは^いな^いれ^いて^い誰^いを^いこの^い四^い役^い

そのひ^いを^い云^いふ^いや。そ^いう^いき^い人^いく^い其^い器^いは^いあ^いこ
 へ^い。その^い器^いを^いく^いう^い任^いて^いお^いの^いく^いえ^いと^いつ^いと^いえ
 ら^いる^い

備用三

喪葬祭礼入用の
具をどういふか

棺

制法下は刃をいり

神主

下は刃をいり

誌石

下は刃をいり

小神

上帯下帯

肩衣袴

踏皮

浴衣 二 巾

慎 巾

その式寸四方の絹二をぬいあをせ。中へ綿入。四の角
よりむが。死者の類にあて。うろ。あて。ひ。ぬ。なり。
絹の色表と裏と黒く裏と赤くとあれる。白き絹も
もす。色。こ。う。

握 巾

絹一。二。三。を。け。を。尺。寸。中。へ。綿。入。ぬ。い。あ。を。せ。四。の
角。の。不。け。お。う。や。う。は。二。つ。う。死。者。の。あ。を。
と。つ。ひ。なり。そ。を。絹。の。色。真。目。巾。又。同。

充 耳

綿をきりめて死者の
あ。耳。を。ふ。さ。き。なり。

沐浴具

桶。う。う。い。
の。類。

墨

幕

白。布。き。

草 衾

布。ふ。ろ。或。ハ。六。尺。二。尺。を。大。き。う。
む。と。の。つ。こ。物。なり。用。や。う。下。は。足。こ。う。

綿 衾

三 物

草衾のよりある物二を中へ綿入。きりめて
絹。あ。て。つ。く。か。一。用。や。う。下。は。足。こ。う。
石。灰。は。砂。と。赤。土。と。は。三。分。一。つ。ま。せ。水。酒。を。加。て
あ。め。す。なり。石。灰。三。石。を。き。ハ。砂。と。赤。土。を。き。ハ。せ。葬。の。時。こ
も。め。て。炭。末。と。棺。の。同。じ。つ。い。の。厚。さ。
二。寸。え。う。ろ。あ。う。下。の。法。葬。の。あ。は。れ。せ。
お。う。炭。の。粉。なり。い。め。を。御。末。見。し。き。
一。三。物。と。土。の。同。を。つ。む。物。なり。

炭 末

沈 香

木 具 土 器

死者へある器具なり。きり。き。や。く。存。生。の。時。を
あ。て。つ。く。か。一。用。や。う。下。は。足。こ。う。
用。ゆ。め。に。記。は。し。て。し。る。器。具。

茅 砂

杖

右。大。略。か。の。一。護。喪。司。員。お。と。り。て。連。は。用。

俄^にもこの木もまきく漆^しをぬるものなりけり
 老親^{らうしん}ある人のかねてむかうは用^{もち}さあふさやた人
 さすいはいかれら寸^{すん}棺^{くわん}を作^{つく}るなりけり
 さあといひておそめる患^{ぐち}乃^{すなは}ちるや自^じ餘^よの葬具^{そうぐ}
 しかばねよりさのさかれとけりてさうせうめ
 うきよ作^{つく}るさゆとけりてあなをくさぬ人
 のけりなり○棺^{くわん}のふは又^{また}棺^{くわん}の拾^{しゅう}ぬめて棺^{くわん}より
 さ内^{うち}規^き寸^{すん}つてよりさむく上^{うへ}の七八寸^{しちぱん}たうて
 蓋^{ふた}ありて底^{そこ}のさゆけりすさ板^{いた}めてさせむる
 一^{ひと}ふれと灰^{はい}隔^{かく}す。さふまれハ三^{さん}物^{ぶつ}やどうめ

用^{もち}やう治^ち葬^{そう}のあふさく。三^{さん}物^{ぶつ}のあふさく記^きをばう家
 礼^{れい}よりて葬^{そう}する人のけりも棺^{くわん}と二^{ふた}をりて其
 片^{かた}へ松^{しょう}脂^しをさうか入^{いれ}ふさうと灰^{はい}さうさ温^{ぬる}公
 のいふふい擲^なる用^{もち}さふさうけりさゆ擲^なるこれハ
 松^{しょう}脂^しを入^{いれ}るさやうさうさうて灰^{はい}隔^{かく}つるさ灰^{はい}隔^{かく}
 年^{とし}ろくこれハ金石^{こんせき}とさふさあ此^こ説^{せつ}めて凡^{およ}れハ三
 物^{ぶつ}をさふさういさうの松^{しょう}脂^しもさふさうさゆ松^{しょう}脂^しと
 用^{もち}さふ上^{うへ}の擲^なる勿^な漏^{もら}さうさう。擲^なるすれり外^{ぐわい}棺^{くわん}
 たりさうさう力^{ちから}ある人^{ひと}の内外^{ないがい}棺^{くわん}をさふさう。松^{しょう}脂^し三^{さん}物^{ぶつ}
 さうに用^{もち}ふさ可^べなり。温^{ぬる}公^{こう}外^{ぐわい}棺^{くわん}松^{しょう}脂^し用^{もち}られさうさ

まり。よく吟味する。葬れの時にも紙一族の内より
 一人をとりあつて葬るに持来せし。墓より出
 るは卓よりとて棺をかきし隙は横より出
 たり。そのついでに人となりて清水新しき葉
 墨もて死者の清名をまつを喪うものほあは焼香
 再拜し。神あれようせんと信て又横より入つて
 それよりいへや大変うしてなりものかゝるや。まじ
 神名をかきて題して持来するをよかん

誌石六

石は寸法ありあつて三四寸よりにてかきある石あり

ころん大小いろいろある文字の数はいろいろ。かゝるやうな
 二つうらふ魚よりみづき死者の姓名を記すの外のものと
 せうとくありありをばうけけるを内あり。二
 の名うちあをせて二あるより鉄の輪と入る地なり。
 葬の時にも紙族の内へて地面より三人より下は
 玉魚。まじりなをひく尾もてはく。書つて
 礼よりひくをそのとてかき。こゝの碑をいへて
 ず。その誌石の関るは。葬の時よりかきせは。ハ
 かゝねて塚とほつて入て。せうり時うつは。塚の
 形も。或は市町城郭とありて地井おとよりく。さ

棺の櫃より入るなり喪に 勿湯すさす洗つじふま
 みの掃給行へ入むとあり
 とく小神あり。さて下帯上帯じりて衣取
 目の中握り中とわどろ。三條お 踏皮と月の袴肩衣を
 さいせ母あふふうの子をいふこの衣裳片にふど
 衣類いつもそえたるありて帯の下のじりひめとよ
 せぶまじりひますふそそ装束るちりくさる早食
 けぬ片をかりし戸骸はおけ下の置さう上座の心中
 へあふくろよあをすれつら腰どうも器具金瓶
 めてかざりくろ物と月どおのく哀をあぐ
 入棺ハ 戸骸を棺に
 かさじふや

死者早食の上よあふくろさるあまの同とあの方
 と其外ある小神を用ひて早食あてつゝさる阿ひく
 ころも出入のあれやうよさる早食のぬ片をたふ
 うちかけ其上下のあふりをけく後の上あておろ
 布一をけつろよさるくろぬあて横よさうさあ
 てむすのぐれは棺を戸骸のさうへを綿糸を棺中
 へかりへるあふりを棺の外けり方へれむ人こあ
 いあささうさアとあけ棺は入つてせすささるあ
 を小神あてくけねるせり阿の髪尻あとおろ袋
 へ入て棺の四すこさあ。勿湯洗後沐浴の阿とる

棺よりつれ縄かきぎめてうろよる男ふ人かみ
 あらや忠實^{あつし}ならぬとせめて今もろくもきくも利
 根^{こん}もその親類^{しんれい}あるあつひに神^{かん}多^たくて截^{ちやく}断^{だん}よりこ
 へくまうつりえりあてていそぎやてめんえり
 せめてそのんを屋^やりこりや自慢^{まん}と喪^{さう}より
 孝^{かう}んやうの終^{しゆう}力^{りき}のうろこありてはましくあること
 却^{かへ}て終^{しゆう}りよくすふれぞとおそいなりぬかきこす
 や○父存^{ふぞん}生^{せい}きて母^{はは}くれさせ給ふ所喪^{さう}葬^{そう}のう
 られ父のうづつをうくあやされも父俗^{ふぞく}法^{ぽう}よめやも
 て死^しまの髪^{かみ}とうらん経^{きやう}文^{ぶん}とこころ帷^い子^ことせんを

あらういふんは理^り法^{ぽう}のていふこととて是^{こゝ}恥^ち恥^ちみく
 父のあつたせのうろよはるかにてむうよ心をほく
 棺^{くわん}の内^{うち}やうこと法のよくあるじへ父をあはしく
 へ似^にたれども一時の権^{けん}なり。こそそその母^{はは}うろ人を死^し
 てそ人^{ひと}を食^くは立^たてて送^{おく}りてくものせて
 みくして金^{かね}すこふありやたねのつうくと俗^ふ法^{ぽう}は
 悔^{くわい}をまて後^{あと}を喪^{さう}葬^{そう}れ礼^{れい}法^{ぽう}をまうよつけ
 て悔^{くわい}悔^{くわい}とありけくかあ。こつたふにうせん。それみ思^{おも}
 へ悔^{くわい}あるふみう悔^{くわい}くのこつたふにうせん。それみ思^{おも}
 へ制^{せい}しるふみ。こつたふにうせん。それみ思^{おも}

とくそく婦女のどまぐういれ棺くわんのたれ方なり打まひ
 是も後うちありてゆくゆゑと。俗ぞくよまゐるひて糸地いとぢ
 以て男子の泣なみよりゆゑとあうと。きくし其代こころい
 とてりいひの女房にようばうを棺くわんにけく庵いんさうたす
 と哀あいけあくる

ある人いふ。喪^{さう}礼^{らい}やもすまへ哀^{あひ}と葬^{あは}よとれい
ゆふしうんえひ。人の哭^な泣^ない肉^{にく}よりも。家^{いえ}めて
哭^なせよと云ふも其肉^{にく}よりうこをへ哭^なせよは。ま
ゑる儀^ぎあつて哭^なせい。是^{こゝ}にわかれぬ人^{ひと}。予^よに
よくあつて。あつて聖^{せい}賢^{けん}を哭^なせよとの事^{こと}の儀^ぎ。

[illegible]

俗葬十 ふくむりおこし

山林清浄の地とえてふくむりつう。早速ふくむり
 めえくくむりつう。寺院の内とかりてふくむくおこし
 地とえてあふふくむりつう。葬らんふくむりつう。
俗葬の儀式
ハジメ言立氏補
 へくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
俗葬
 くのりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 の奥ふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 へのりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 そふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 こ地ふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。

葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。
 葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。葬らんふくむりつう。

能みほしく。木とりのむ。きづる底は
しめ。鏝くえんつさく。縄なはとぬき。棺くわんと灰隔はいかく
の箱へこのちく三物さんぶつは入ていさかむ。棺くわんの内へむり
じや。棺くわんの蓋ふたの上へ。灰隔はいかくの箱へこのちく一とい
三物をむて。能のうつさく。め。灰隔はいかくのちく。能のうき
め。ちい。角かく。うのちのより。又。炭末すすをさる。
み六寸。むて。う。ち。より。上。を。土。を。り。土。式。人。あ。り
き。む。り。と。お。り。河。誌。石。と。入。一。誌。石。前。は
か。へ。り。棺くわん。小。角かく。よ。お。さ。め。南。と。あ。と。す。る。地
能のうより。て。お。く。く。い。方。角かく。よ。は。の。つ。く。う。う。能のう

ある人いしく。葬地そうちえ。う。ひて。み。孫そん。利りあり
といふ。其。理りありや。ち。い。く。其。理りあり。
お。や。さ。我。身われみの。根ねなり。根ねよ。さ。土。地。よ。お。さ。ゆ
り。さ。め。枝。葉えいは。く。さ。る。う。あ。く。然しかや。よ。さ。土
地。とい。え。う。の。不。潔。淨ふけつじやう。め。て。土。の。さ。う。ほ。り
く。地。能のうく。ち。り。て。水。い。で。む。草。木。さ。く
え。ち。り。て。え。う。と。五。患ごくわんの。さ。づ。う。ひ。る。れ。ば。い。ぬ
なり。み。患くわん。い。は。よ。く。う。ふ。る。と。ある。城。郭じやうかくと。ある
う。海。池かいけと。ある。う。貴。人きじん。う。う。ぐ。と。む。て。あ。そ。び。取
と。ある。う。田。畠でんぱくと。ある。う。の。れ。う。さ。り。世。う。り

年久しうてこの患あらんといふ
おろそか。其のあらうありき土地とあり
て指てふじうの儀は孝心ふさこのこゝろ
次。我々のこゝろをとおもひぬや。あゝ土地
よふじうにあらば人のあらうにけしき
ふふ。堀よまゝ金でけり親代方をその奥
氣よまゝ。或は奴婢雜人を茶噺して
いふ。むやうあらはる灰の上よ。我れやを
うらう金で金するを。思ひやるめと
胸ふさか。筆すてられけり

虞祭十一

葬りをとりて家へ返す

一族葬より海りうのまゝ喪と奉令しうて
喪主は下まゝおちする。さうくさる水洗足
して上座より身を神に紙其上よりすまわ
横をむく。腰をむく。降神進膳三献讀祝
園門啓門。乃ち大節祭礼。大く四時の祭儀のしるす
られ虞祭より祭の始は哀とあけ福酒との
まゝ。昨をうむす。祝文をよむ。主人の右はあ
る。類吉凶祭のあらう。喪の内のみつりを吉祭と
下巻祭礼の内より見合て合点す。葬礼

年の初より前をとりて三虞祭の日の中
 よおこしつゝ。午の初いほの葬れり。景に
 ても祭法めてとく。この日の内はまつる。と
 束めて葬りて。あけの日はつる。是を初虞
 とす。三虞あり。初虞の日のえひのえつらのえ
 かのえつらのえあむ。其あけの日又まつる。きのとい
 のとつらのとかのといのえあむ。二日づつ。又まつる。是
 を再虞とす。再虞のあくる日又まつる。是を三虞
 とす。比次は卒哭の祭と云われ。それなほ三
 ヶ月あつて葬る時のめざす。けい三虞めてやめて

それより又十日の内は毎日朝夕は膳とさる。と
 する。夕は香燭茶菓んふにす。この調度
 まで死を平生りてあむ。多けり。神の所
 前より。祭めて。毎日の膳。初より。三虞祭
 より。かくす。初日。す。う。を。と。る。一。初奠ハ夕
 奠の。う。も。て。夕奠ハ初奠の。う。も。て。それ。ま。を。り。
 其肉。煮。へ。く。す。食。う。て。菓。み。あ。の。う。に。初
 ぬ。地。く。り。う。水。を。し。あ。り。卒哭。と。い。ふ。二。百。日
 ま。ら。う。な。れ。い。ふ。い。ふ。祭。法。は。ま。と。く。さ。う。一。百。日
 目。と。さ。の。日。は。葬。る。日。と。す。り。や。う。虞。祭。は。あ。ま。り。

さて。國人の四人今の度まで式をみすゝか
餘り。我家固くあり。うつーむ下。法はさるゝお不
やうかくのしくまきとも。困こづ倦ぐえむきがうへ。墳碑
のかど地をときいふやうもすすぬ。うねとすゆさうに
ある人いふ。初喪しよさうの礼法をさるゝに俗礼よ
さうて。ひとに費用いようばかり。もう一三人をそ
せびらうす家産かさんやがれまん。さいわいともい
と免めんせんや。予いらく人のふよい田畑より身
をうりて葬りしとあしもある。財産ざいぜんのうと
あつたをいふと免めんせんぞ。さればいふ仕官しえんの

人をいふるもすむさよあり祿を我力
 のよりけりて歟。一。聖人たるは
 家の有^ゆをいふや。一。力にふゆをいふ
 とありて。うらむてせむ。ふれ罪
 づるよあるを。され繫^け辭^じよいこと。大過^{たいくわ}
 ともいふ。孟子も天下のあり其親^{そのこん}
 う寸^{すん}や。父とのこと。母とく。ういふ。か。父。
 せの異^い教^{かう}の人のいふれぬ。骨^{こつ}ありむ。いふ。さ。す
 まれて。う。親^{おや}。お。う。う。ふ。の。う。う。漢^{かん}聖^{せい}人の
 大^{たい}礼^{らい}と。さ。大罪^{たいざい}は。あり。す。や。ふ。あ。る。人の。い。ふ。

人の母のいづく我死せし火はやきて其處を川よ
るくすなり。其ふ力なく終り其命のよく
す。かるるもて遠命あるす命や。平いそ
晋の魏顗が父の妻を葬つたところへ
千載の義漢ありて漢の明帝の后子帝の神
主汲光烈皇后更衣の別室にたまり。首代
の遠恨あるすや。こころ父母をれり屋や人
ころいせよとぬき遠くあるそれよきうん
や。非礼の遠く親のまじりや。神となりて非
礼どうも終りぞ。ちこころいふも又孝なり

居喪十三

父母より死して三年の間精をこめて
力をもつとてさうくつていふなり

喪をいこふる最もそとくまづ初喪三日は食
とて四月より又十日は肉ハ粥と食と。喪主の妻并
姉妹は四月より粥の分量おろし一溢。一日より二溢の
米なり。一溢は肉をそとくつてやうきとて。
むきよりくる米より肉より粥より煮て一日は
あな食すれはたのけうぬきのや。粥は
うきより塩菜とす。そのて食す人こそ喪
大記より見たり。五十日して飯と食とを洗ハ粥と
食するは三月なり。國俗より又十日ははる

よくつらなるなり。またの士^しは、さかひなく、はるまで、
い^じ粥と食^くて、いかみ^みで。そのい^いみ十日の内なり。と用^{もち}
ふの^い砌^みなり。つとめて飯と食^くと。飯と食^くする。と
そ一^い汁^じ一^い菜^{さい}なり。とつと次^{つぎ}疏^そ食^{しょく}水^{すい}飯^{はん}とあれ。い^い是^{こゝ}と
い^いや。ま^まして自^じ餘^よの^い菜^{さい}菓^{くわい}足^{たり}つれえや。勿^な論^{ろん}朝夕^{たふし}あ
な^なの^いや^い飢^うよの^いそ^そま^ます^すして、み^みなり。飲^{いん}食^{しょく}す^す食^{しょく}す^す次^{つぎ}。
茶^ちい^いな^な人の^{ひと}喪^もう^うもの^いす^すれ^れと^と足^{たり}なり。一^{いっ}周^{しゅう}忌^きまで、
の^のく^くして、其^{その}好^{こう}い^い菜^{さい}菓^{くわい}と^と食^くし^し。世^よ上^{じやう}の^の人^{ひと}の^の精^{しやう}を
す^すと^とえ^えや^やと^とい^いて、酒^{しゆ}と^との^のま^まで、三^{さん}回^{かい}忘^{わす}れ^れい^いと^とい^い
なり。上^{じやう}の^の法^{ぽう}よ^よか^かつ^つる^るま^まう^うと^とい^いふ^ふあり。病^{びやう}く^くと^とい^いふ^ふ十^{じゅう}以上^{じやう}

血氣ちいきがとろとろと下くだりたり。そして病いび人の病中いびちゆうのもの
酒肉しうにくとちひ。病いびの精しやうをよかゆふ。と。と。又またなりさ
病いびの酒肉しうにくと用もちひ。と。と。金かねと。それと又またいふ。と。と。
て素食そじきと。と。肉にくを。と。これ飲食おんじきの。と。と。と。
す。と。次第しだいは。と。と。か。と。と。人ひとあり。と。と。と。の。人ひとあり。
と。と。魚鳥ぎやうとりは。食じき。と。或あるは。と。と。は。煮ゆて。と。肉汁にくじきを
吸すて。と。と。と。と。と。あり。か。満みす。の。人ひとなり。と。と。
幸さいと。と。血氣ちいきが。と。と。と。法はふの。と。と。と。と。と。と。年とし
よ。と。と。と。放ほう埒らうあり。と。と。と。○三年さんねんの。と。と。宴樂えんらくと。
あ。と。と。と。珍ちん重じゆう賢けんと。と。と。と。と。と。宴樂えんらくと。と。酒しう

喪礼を以てしりしなり。宋の世よりなり。
 大明の四三年の喪にあらん人すれしす。
 三代より明人よりなり。みなあやなり。
 然れどもあはれなり。さういふ礼なり。
 あるは。さういふなり。あやめ。あやめ。あやめ。
 ころし。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 句の喪す。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 をば。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 る。素食が。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 よ。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。

弁喪十四

族はありて父母の喪をいふて
 いう。さういふ。あやめ。あやめ。あやめ。

父ありて母ありて。あやめ。あやめ。あやめ。
 果し。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 祈。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 よ。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 用。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 中。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 誦。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 云。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。
 内。あやめ。あやめ。あやめ。あやめ。

する。是又さういふ寸き其死をのり月を
 魚てれとさうにさうして。そてまふ殺す
 三月月い香燭茶菓酒膳とて明日何所な
 一市供り下とてさうする。其何いなりて棺を出
 主人の棺のたなけうの後歩をて一里よりて以て
 それよりさうも興うものさ。て朝夕奠さうくを
 臥さやうにそのをねふ。なすていをつさうに幾日
 の何より有り判ある。魚と一族のとつと
 やる一族のさう。家より一二里のりよ出て小屋とか
 う氏家よりて棺をのりとさう。そて香燭茶菓

どうさあめく淋泣。それより家入りつと
 かり其家より城中よりありて棺に入る。悔の
 うのさう其付くさう。あまめ葬具くいとあ
 て也。葬地送る。俗法は旅棺といひ
 必ず塩酒を用ひて死者の身といつては塩燭を
 せで。さうさう沐浴龍衣飲。棺の肉をい
 清潔に。とひる。魚鳥の肉をい。さ
 しくめて。其さう人れは。其のんや。おと。い
 のり。死罪のもの。首を。さう。つと。い
 う。さう。い。さう。い。さう。い。さう。い。

以上六ヶ月の服なり。終る三月

三といふ ぬきぬきといふ ちうちうめ じい

ひのこ うみうみめ めのこ ぬきぬき

以上三ヶ月の服なり。終る三月

婦人等の喪のあらはれ喪

三年なり。終る父母の喪けし

おさねて死する人の喪

その年より死するまで一等をさへて二歳より三まで
あり死するは、陽といふ。十二より十九まで死する
と中陽といふ。十六より十九まで死するは長陽

といふ。この期の喪するは親類として其死者を陽と
いふ。九月の服なり。中陽といふ。七月。下陽といふ。六月。
八歳より及ぶは十三月。八歳なり。とて妻といふ。と
男子よりつりしる女子より十九より二十までなり。と
陽といふ。ぬきぬき

右は佐親の喪うの大業と記を。妻細い。礼は分四等
あり。かんふりといふ。中神祇服紀念より。へてより
きにさういひてより。ちうちうめ。必し。その目数
かつ。けし。服紀念ひ。うり。は。記を

神祇服紀念

父母服十三月服五十日

親父母服百五十日服三十日

嫡母繼母服三十日服十日

史服十三月服三十日

妻服九十日服二十日

舅姑^{夫の母}服九十日服二十日

嫡子服九十日服二十日

末子服三十日服十日

祖父母服百五十日服三十日

伯父叔父服九十日服二十日

姑^{姉妹}服同前

兄弟服九十日服二十日

姊妹服同前

曾祖父母服九十日服二十日

高祖父母服三十日服十日

嫡孫服三十日服十日

末孫服七日服三日

從兄弟服同前^{おんみ}

甥姪服同前^{おんみ}

異父兄弟姊妹服三十日服十日

同族より
これハ服中

外祖父母服九十日服二十日

留嬖服三十日服十日

七歲以下玄服

己上

君喪十七

此喪礼家礼より見てはさうとぞして祿をうくら
者心よくくもりさうのよあはれむううは思ふは例の
み前よりなまんははいみ。されも嗣君喪威これ目
教をもくへ給ぬ誠士としてくつろむをなかりま
まてみ前よりて飲食起居常よりつてくつろむを

ひよりさうとぞしての心喪の長短は師中の淺深は職
のき下内外親疎よりてくつろむ相簡して定む
ある人いよく君父一理なり父母の喪うの法みよれ
わて長短するさうあはれや君の喪いそ長短するさ
親疎より下られむくつろむさういよくくつろむ君
父一理なり理よりて分殊より君はる義
をさうてあはれ父のみさげとつてあはれと君
と師となられ三年は喪あるを程ふ師の喪は
おわて情の厚薄の大小をりてさうは處す
るさうとのさうりて類して推へ一季土の濱

